

文節相互の関係

…文節と文節はお互いに関係しあっている。

その関係は六種類に分けられる。

- ① 主語・述語の関係
- ② 修飾・被修飾の関係
- ③ 補助の関係
- ④ 並立の関係
- ⑤ 接続の関係
- ⑥ 独立の関係

1 主語・述語の関係

「何が(は・も)〜何だ」「何が(は・も)〜どうする」「何が(は・も)〜ある/ない」「何が(は・も)〜どんなだ」という構成をなす関係。

主語 述語
私が 先生だ。
(何が〜何だ)

主語 述語
私も 泣いた。
(何も〜どうする)

主語 述語
犬は かわいい。
(何が〜どんなだ)

① 次の各文の——線部の述語に対する主語を抜き出さない。

① 妹が、「私も ケーキバイキングに 行きたい」と 言った。

妹が

② 母の 生まれた 町は 大和川を 越えた あたりに ある。

町は

③ 君こそ 私の 気持ちを わかろうと しない。
「が・は・も」以外に「こそ」も主語をつくる。

君こそ

④ 学校の 図書室には マンガが 一冊も ない。

マンガが

② 次の各文から主語と述語を一文節ずつさがして、主語には——線を、述語には——線をつけなさい。

① 自然は 人の 心を おだやかに します。

② 妹も 私たちと 一緒に 遊びたがった。

③ 文通を して いる 友達と、 ぼくは 初めて 電話で 話した。

④ いらぬなら 全部 食べるよ、 ぼくが。
↑「ぼくが、食べるよ。」の倒置。

⑤ コッペパンに 焼きそばを はさんで、 母は 焼きそばパンを 作った。

⑥ 白い リボンの 付いた 麦わら帽子を かぶった 美しい 少女が いる。

⑦ 生徒たちは みんな 教室に 避難した。

⑧ さっきまで ここに あった ぼくの 帽子が なぜか ない。

